

経営比較分析表（令和6年度決算）

兵庫県伊丹市 伊丹病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
業種全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特等診療機関 ※1	指定病院の状況 ※2
	33	対象	ド造り余額方	教員が地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中級病院	看護配置
200,294	33,790	非該当	非該当	7：1

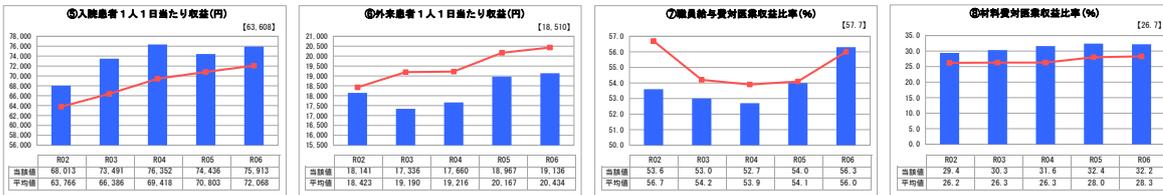
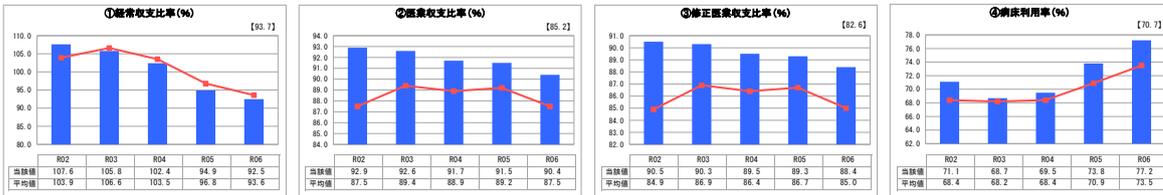
※1 ド造り余額方 造り人工造形 1…ICU・CCU 兼…NICU・東風用室 別…運動機能訓練室 がんがん（放射線）診療

※2 救急告示病院 臨…臨床研修病院 がんがん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地区医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪審判病院

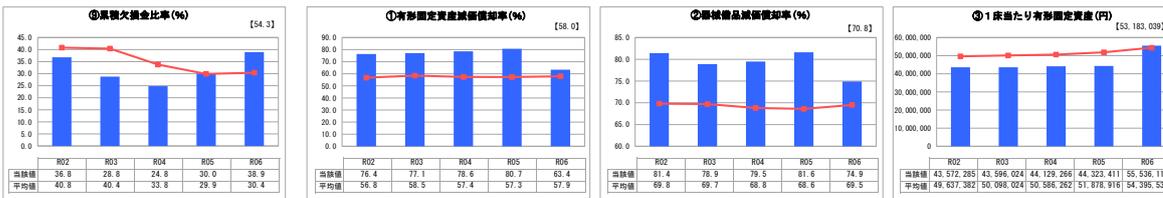
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総合）
414	-	414
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	414
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
402	-	402

グラフ凡例
■ 当院実績（当院値）
□ 類似病院平均値（平均値）
□ 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

取組内容	実施時期
■ 当院の取組	令和6年度
□ 類似病院の取組	令和6年度
□ 令和6年度全国平均	令和6年度

I 地域において担っている役割
 市立伊丹病院は二次救急医療を担う急性期の公立病院として、地域の中核的な医療機関の役割を果たしてきた。地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院として地域の診療所からの紹介患者を受け入れるとともに、救急病院として急性期患者の受け入れを中心に阪神北摂圏域における伊丹市内の救急車の受け入れについて基幹的役割を担っている。

II 分析

1. 経営の健全性・効率性について

救急受入体制の強化や効率的な病床運用、新規入院患者の増加等に取り組んだことで、入院収益や外来収益は過去最大まで増加したものの、人事院勧告に伴う給与改定や統合新病院に向けた人材確保に伴う職員給与費の増加、物価上昇及び抗がん剤等の薬品使用量の増加に伴う材料費の増加等により、令和5年度より経常収支比率・経業収支比率ともに低下しており、非常に厳しい経営状況となっている。
 引き続き、地域の医療機関との連携強化や救急患者の受け入れ推進等により、患者数の増加と収益増加を図るとともに、安全で効率的な診療を進めることにより、経営の健全性を確保する必要がある。

2. 老朽化の状況について

病棟施設等が築40年を超え、建物・機器の老朽化が顕著となっており、計画保全により施設機能の維持を図っている。
 持続可能な地域医療提供体制の確保に向け、令和2年度より市立伊丹病院と近畿中央病院の統合再編に着手しており、令和9年度中の開院に向け整備工事を進めているところである。
 令和8年度においては、既存施設の部分解体を行い、東棟、職員宿舎・保育所棟等の仮設運用を開始したことにより、省形固定資産減価償却率が大きく減少したものの、未だ類似団体平均値よりも高い状況にある。
 引き続き、病棟施設の老朽化状況や新病院の開院時期を踏まえつつ、医療体制確保と収支改善を両立し、適切なタイミングでの保全改修に努めている。

全体概況

施設の老朽化と医療機能の向上に対応するため、令和元年度に策定した「市立伊丹病院と近畿中央病院の統合再編に係る基本方針」に基づき、令和9年度中の開院を目指し、統合再編基幹病棟の整備事業を進めている。
 統合再編開院に向け人材確保や物価上昇等により、人件費や薬品費等の医療費の増加を見込むほか、新病院整備事業に係る企業債の償還開始など、当面厳しい経営状況が続くものと予測している。
 持続可能な地域医療提供体制を確保するため、経営強化プランに位置付けた取組を着実に推進し、経営の強化に努めていく。